

mg/m<sup>2</sup>(d1, 2, 3), G-CSF (KRN8601, 75μg/ml, d4-15)の化学療法(Tokushima-CODE: T-CODE)を1~2クール施行した。評価可能9例全例でPRが得られ, RRは100%であった。主たる副作用は骨髄抑制でgrade 3以上が白血球で7例, 血小板で5例に認められた。

### 53. 局所進行肺非小細胞癌に対する concurrent chemo-radiotherapy

愛媛県立中央病院内科(呼吸器科) 森高智典, 中西徳彦

北出公洋, 上田暢男

局所進行非小細胞癌に対する concurrent chemo-radiotherapyの有効性と安全性につき検討する。CDDP 20mg/m<sup>2</sup> day 1~5, ETP 40mg/m<sup>2</sup> day 1~5 (c.i.), Liniac 2 Gy/day 10回を1コースとし, 2コース後に再評価を行い, 手術可能例には手術を施行した。1992年5月以降11例が登録され, 全例にPRが得られ, 6例に手術を行った。現在までに, 1例が脳転移にて, 1例が間質性肺炎にて死亡した。重篤な副作用は認めていない。

## 九州支部

### □第33回

#### 日本肺癌学会九州支部会

平成5年8月6日(金)

福岡サンパレス

当番幹事 増田康治

(九州大学放射線科)

#### 特別講演

#### 肺癌化学療法の現状と将来の展望

九州大学医学部胸部疾患研究施設 原 信之

Cisplatinの登場によって肺癌の化学療法は著しく進歩した。しかし化学療法単独で治癒する症例は小細胞癌の一部で, 非小細胞癌では延命が得られても治癒は難しい。本講演では, 1)化学療法単独あるいは他の治療法(外科, 放射線治療)と併用した場合の成績, 2)化学療法の効果を増強させる試み, 3)新抗癌剤開発の状況, 4)今後の化学療法の動向などについて述べた。

#### 1. X線CT発見肺癌症例の検討

熊本地域医療センター呼吸器内科 千場 博, 深井祐治

同 放射線科 吉松俊治

同 病理 蔵野良一

X線単純写真では指摘できずにCTで発見された9例の末梢型肺癌を検討。CT施行理由: ①異所チェック5例②びまん性疾患チェック2例③血痰1例④高CEA血症1例。単純写真で指摘できなかった理由: ①部位による(縦隔側2例, 胸壁に接する2例, 鎖骨1例)②病変の性状による(小さい2例, 胞巣形態によるX線透過性2例)。

全て切除, 8例はp-I期, う

ち6例は肺野型早期。人間ドックやhigh riskグループの会員制検診ではCT導入も考慮必要か。

#### 2. 胸部CTで異常を認めなかった症例における retrospectiveな検討

長崎大放射線科 小幡史郎

森 雅一, 平尾幸一, 林 邦昭

胸部CTが日常の臨床に用いられることが最近急増している。中には全く正常またはほぼ正常のことも多く, 被験者の被曝や経済的負担を考えると, 胸部CTの適用について再検討する必要があると思われる。

大学病院を含む2病院における胸部CTで著変を認めなかった症例を対象として, CTを行った理由(病歴, 症状, 検査所見, 胸部単純X線所見など)について検討したので報告した。

#### 3. ヘリカルCTによる肺結節描出能に関する検討

産業医大放射線科 渡辺秀幸

江頭完治, 中村克己, 平方敬子

中田 肇

同 放射線部 安井修己

スクリーニング検査を目的とした肺野のヘリカルCTについて, 肺結節描出能を主に検討を加えた。ヘリカルスキャンと通常スキャンの対比では寝台移動速度秒15mmの条件で実験的・臨床的に通常CTと結節影の存在診断はほぼ同等であった。原発性肺癌症例では原発巣は51例全例で良好に描出され, 肺転移巣など付随した肺野病変の描出も非常に良好であった。しかし, 縦隔リンパ節転移の描出は通常CTと比べ困難なものが多かった。

#### 4. 気管気管支病変の3D-CT

九州大放射線科 村上純滋

村山貞之, 鳥井芳邦, 増田康治